

第5学年 国語科学習指導案

日 時 令和2年9月29日(火) 5校時
児 童 5年1組 25名
授業者 土谷 亮祐

1 単元名

『たずねびと』(光村図書5年) ～自分の考えを交流し合い、読書通帳につなげよう～

2 児童の実態

今年度の国語科の授業では、2つの作品を通して文学的な作品に関する読みの力を高めてきた。これまで、子供たちが身に付けてきた読みの力は、大きく4つある。

- ①行動や会話の叙述を根拠に、中心人物の気持ちの変化を読む力【木竜うるし】
- ②行動や会話の叙述を根拠に、登場人物の人物像(性格)を読む力【木竜うるし】
- ③登場人物同士の関係性を捉えながら読む力【なまえつけてよ】
- ④題名や繰り返し使われる言葉に着目して、内容を解釈する力【なまえつけてよ】

これらの読みの力を多くの児童が身に付けてきた。しかし、作者の表現の仕方や作品からのメッセージに対して、自分なりの考えをもちながら読む意識が極めて薄い。よって、本単元では、表現の効果について考えたり、自分の考えを交流したりする活動を中心に進めていき、読みの力を高めていきたいと考えている。

3 単元の指導目標

- ◎表現の効果について考えて読み、作品からのメッセージを捉えて読むことができる(思C(1)エ)
- 作品からのメッセージを基に、自分の考えをもつことができる(思C(1)オ)
- 情景描写などの表現の工夫に気付き、内容をより豊かに解釈することができる(知(1)ク)

4 本単元と研究との関連

上記の指導目標を達成するために、本単元では『自分の考えを交流し合い、読書通帳につなげよう』という言語活動を設定した。自分の考えをもつ対象を「作品からのメッセージ」と「作者の表現の工夫と効果」とすることで、言語活動と付けたい力の一体化を図った。また、日常的に活用している読書通帳との関連を図ることで、児童の主体性を生み出していきたいと考えた。

表現の工夫については、3つの視点で考えていく。それは、「設定(一人称・時代)」「気持ちを表す言葉」「気持ちの変化に影響を与える人や物」である。1時間に1つの視点を考えていくことで、表現の効果を繰り返し学ぶ機会を生み出し、確実に言葉の力を身に付けさせたいと考えている。

『たずねびと』は、戦争に関する内容の文章である。子供たちは、戦争の話聞く機会も少なく、戦争に対する経験や知識が全くないに等しい。よって、学級文庫の一部を戦争コーナーにして、戦争に関連する本に少しでも触れさせたいと考えている。そして、子供たちがテーマによる読書の広げ方を少しでも感じてほしい。

指導にあたっては、既習事項と本単元で学ぶこととのつながりを子供たちにも意識させる。それにより新たな学びを理解するだけでなく、学習したことが生かされていることを実感させることで、確かな言葉の力を子供たちの中に残していきたいと考えている。

5 単元の授業過程（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準
1次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・意味が分からない言葉を辞書で調べたり、音読を調べたりしながら、作品を一度読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉一つ一つを正しく理解して、作品の内容の大体を理解している。
2次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・中心人物の気持ちの変化を、心情グラフを使ってまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動や会話、心内語に着目しながら読み、中心人物の気持ちの変化を捉えることができている。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・一人称視点や時代などの物語の基本的な設定を理解し、その効果について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人称と三人称の視点の違いや戦時中ではなく戦後の世界を描いている意図などを踏まえて、表現の効果についてノートにまとめている。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・中心人物の気持ちを表す言葉を見付け、その工夫と効果について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情景描写などの表現の工夫に気付き、その表現の効果についてノートにまとめている。
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・中心人物の気持ちの変化に影響を与えたものは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心人物の気持ちの変化に何が影響しているのかを捉えて、そのものがどのように影響したのかをノートにまとめている。
3次	6	<ul style="list-style-type: none"> ・作品からのメッセージを基に、自分の考えをまとめて、友達と交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめて、交流することで友達と自分の考えの共通点や違いに気付くことができている。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で身に付けた言葉の力を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた言葉の力を理解し、次に生かすことができる場面を考えている。

6 本時の学習

(1) 目標

- ・ 中心人物に影響を与えたものは何かを読み取り、それが作品の中でどのような役割を果たしているのかを考えることができる。

(2) 本時の展開 (5/7)

児童の学習活動	研究内容との関連	教師の支援・評価
1 これまでに学習した教材文の中で、中心人物がなぜ気持ちが変わったのかを考える。 2 課題を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容と前学年との系統性を児童に意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『きつねのおきゃくさま』と『モチモチの木』を示す。 ・ 影響を与えた人物を対人物ということを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">『綾』の気持ちの変化に影響を与えたものは、何だろう？</div>		
3 変化に影響を与えたものと理由をノートにまとめる。 4 小グループ交流 5 全体交流 6 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を生かして、影響を与えたものの効果についても考えるようにする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【評価】</p> <p>中心人物の気持ちの変化に何が影響しているのかを捉えて、そのものがどのように影響したのかをノートにまとめている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が作成した心情グラフを参考にすると考えやすいことを伝える。 ・ グループ形態は、子供たちの様子によって判断する。 ・ 全体交流は、子供たちの声をもとに進めていく。また、必要があれば問い直しの発問をしていく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おばあさんの話、ポスター、川、記念館で見たものなどが、気持ちの変化に影響を与えた。</div>		
7 本時で学んだ言葉の力をまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した言葉の力が、どこで生かせるかについて触れて、使える力に変えていく。
8 次時への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動を示し、自分の考えをもつことを意識させる。 	